

日本建築学会関東支部歴史意匠専門研究委員会主催シンポジウム

関東の近代キリスト教建築の現在

昨年、関東支部長名で保存要望書を提出した「イエズス会無原罪聖母修道院 東京黙想の家」は、保存活動も功を奏さず、今年初めに取り壊された。このように日本における歴史的なキリスト教建築は、近年少しずつ失われていっている。

キリスト教建築は、西洋建築史では中心的なテーマであり、重要なモニュメントと見なされる。対して日本の建築史では、周縁的なテーマの一つになってしまう。日本におけるキリスト教の受容が限られた人々のものであり、その建築も多くの場合私的なものと見なされてきたこと、またその受容経緯の複雑さや教派の多様性なども背景にあるのだろう。事実、長崎のような著名な例を別とすれば、日本の教会建築については、意外に詳しいことはわかっていないのではないだろうか。例えば関東の教会建築の全容を知ることができるような資料は見当たらない。

そのような問題意識から、関東支部歴史意匠専門研究委員会では今夏、関東地方に現存する近代（1945年以前）に建設された教会建築の確認作業を行った。その成果をもとにシンポジウムを開催し、関東のキリスト教建築の建築的・歴史的価値を考えてみたい。

<プログラム>

- ・ 主旨説明 海老澤模奈人（東京工芸大学）
- ・ 総論 「関東地方に現存する近代教会建築について」 星和彦（前橋工科大学）
- ・ 各論1 「近代日本における布教拠点としての教会建築～カトリック横浜教区を事例として～」 片山伸也（日本女子大学）
- ・ 各論2 「島村教会と文化財登録」 黒津高行（日本工業大学）
- ・ 各論3 「世田谷区の教会 ― 富士見丘教会を中心にして」 堀内正昭（昭和女子大学）
- ・ 各論4 「根津教会の保存改修計画～関係者との保存の意義に関する議論について～」 田代洋志（東急設計コンサルタント）
- ・ 討論 司会：山崎鯛介（千葉工業大学）
- ・ まとめ 羽生修二（東海大学）

主催：日本建築学会関東支部 歴史意匠専門研究委員会

日時：2012年12月1日（土）13:00～17:00

会場：東京工芸大学 中野キャンパス 1号館1102教室

（東京都中野区本町2-9-5 / 丸ノ内線・大江戸線 中野坂上駅下車徒歩7分）

定員：60名（当日先着順）

資料代：1,000円（当日徴収）

問合先：日本建築学会関東支部事務局（03-3456-2050）